

第6回会議（令和6年2月15日）について

第6回会議では、第5回会議で出された意見を踏まえつつ、グループ討議を行います。

具体的な計画案について、課題などを踏まえ、進めていくことが適当であるか、修正すべき点はないか、他に検討すべき具体案はないかなどについて意見交換を行います。

1 具体的な計画案について

第5回会議までに出された計画案については、次のとおりです。

- ① 羽生北小学校、川俣小学校を再編成する。
- ② 新郷第一小学校に、川俣地区および岩瀬地区の一部を編入する。
- ③ 岩瀬小学校、新郷第一小学校を再編成する。 ※第5回会議で追加
- ④ 岩瀬小学校、新郷第二小学校を再編成する。
- ⑤ 須影小学校、新郷第二小学校を再編成する。 ※第5回会議で追加
- ⑥ 学区を再検討する。

2 進めるべき計画案について

次の2案については、今までの協議を踏まえ、基本的に進めることとします。

① 羽生北小学校、川俣小学校を再編成する。

協議の中でも、地区説明会の開催等により進めていくものとします。

再編成の時期は、他の小学校の再編成案も含めた「小中学校適正規模・適正配置計画」の策定期間や、大規模改造工事等の実施の可能性を踏まえると、最短で令和11年度を目途とすることが考えられます。

○令和11年度の児童数見込み

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
羽生北小	39	46	48	38	58	63	292
川俣小	23	16	21	16	24	21	121
合計	62	62	69	54	82	84	413
クラス数	2	2	2	2	3	3	14

⑥ 学区を再検討する。

「小中学校適正規模・適正配置計画」による再編成校については、通学区を設定した上で、保護者・児童が隣接する通学区域の学校に通学することを希望する場合は、これに応じられるようにします。なお、保護者・児童の希望した学校への通学は、保護者の負担と責任において行うこととします。

3 新郷第一小学校と新郷第二小学校に係る再編成について

具体的な計画案のうち、この2校に係る計画案が複数あるため、それぞれについて、課題を整理し、協議していただきます。

【小中一貫教育についての確認】

- ① 当面、3中学校は、そのままとします。
- ② 小中一貫教育については、小学校と中学校は分離したまま、9年間の教育目標を明確化し、教科等ごとに一貫した系統的な教育課程を編成します。
※東中学校区は、東中学校、羽生東小学校、手子林小学校が令和7年度から小中一貫教育を開始します。
- ③ 義務教育学校（小・中学校の区切りをなくし、教育課程を9年とする学校制度）は、中学校の建替え時期に合わせて、再度検討することとします。

(1) 新郷第一小学校に川俣地区および岩瀬地区の一部を編入する案について

○令和11年度の児童数見込み（以下同じ。）

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
新郷第一小	13	8	16	12	10	9	68
上岩瀬	6	7	7	12	19	10	61
桑崎	2	3	5	3	4	1	18
小須賀	0	3	0	1	4	3	11
合計	21	21	28	28	37	23	158
クラス数	1	1	2	1	2	1	8

（想定される課題）

- ・学区を再編成しても、1学年2学級にならない可能性が高い。
- ・上岩瀬地区の一部は、岩瀬小より通学距離が遠くなる。

(2) 岩瀬小学校と新郷第一小学校を再編成する案について

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
岩瀬小	44	51	54	42	60	37	288
新郷第一小	13	8	16	12	10	9	68
合計	57	59	70	54	70	46	356
クラス数	2	2	2	2	2	2	12

（想定される課題）

- ・岩瀬小学校区は、西中学校区と南中学校区が重複するため、どちらと小中一貫教育を推進するかについて検討する必要がある。

(3) 岩瀬小学校と新郷第二小学校を再編成する案について

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
岩瀬小	44	51	54	42	60	37	288
新郷第二小	16	22	25	16	14	19	112
合計	60	73	79	58	74	56	400
クラス数	2	3	3	2	3	2	15

(想定される課題)

- ・岩瀬小の収納可能学級数が15であるため、令和11年度時点の新郷第二小の児童全員を収容することができない。

(4) 須影小学校と新郷第二小学校を再編成する案について

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
須影小	43	42	39	40	57	61	282
新郷第二小	16	22	25	16	14	19	112
合計	59	64	64	56	71	80	394
クラス数	2	2	2	2	3	3	14

(想定される課題)

- ・須影小の収納可能学級数が14であるため、令和11年度時点の新郷第二小の児童全員を収容することができない。

(5) 新郷第一小学校と新郷第二小学校を再編成する案について

新郷第一小と新郷第二小に係る再編成の検討に当たり、可能性のある一つの計画案として追加しました。

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
新郷第一小	13	8	16	12	10	9	68
新郷第二小	16	22	25	16	14	19	112
合計	29	30	41	28	24	28	180
クラス数	1	1	2	1	1	1	7

(想定される課題)

- ・再編成後も1学年2学級にならない可能性が高い。
- ・再編成後は、西中学校区と南中学校区が重複するため、どちらと小中一貫教育を推進するかについて検討する必要がある。

4 具体的な計画案による再編成の課題の整理及び対応案

① 新郷第二小学校の再編成対象校とその時期

令和11年度時点において、新郷第二小学校の児童全員を他の1学校に収容することは困難である。

(対応案)

- ・新郷第二小学校の再編成時期を遅らせる。
- ・新郷第二小学校を複数校（岩瀬小・須影小）との再編成とする。
- ・岩瀬小・須影小学校区の一部を羽生南小学校区とし、新郷第二小学校の児童を収容できるようにする。

② 岩瀬小学校区における中学校区の重複

当面の間、小学校と中学校は分離したまま9年間の教育目標を明確化し、教科等ごとに一貫した系統的な教育課程を編成することとなる。

(対応案)

- ・中学校区は変更しないが、進学する児童が多い南中学校との小中一貫教育を推進する。
- ・西中学校に進学する学区の児童を新郷第一小学校区とする。

③ 新郷第一小学校の再編成対象校とその時期

来年度から児童数が100人を下回る見込みであり、令和11年度時点の児童数見込みからも、再編成の方針を早急に決定する必要性が生じている。

(対応案)

- ・岩瀬小学校との再編成を推進する。
- ・新郷第二小学校との再編成を推進する。